

W-2-4

中央アジアのチュルク諸語における *V-(I)p bol-* [V-CVB be-]

日高 晋介

(日本学術振興会特別研究員 PD/新潟大学)

0. はじめに

中央アジアのチュルク諸語 (Trk.=トルクメン語 (南西語群)、Kr.=キルギス語、Kaz.=カザフ語 (共に北西語群)、Uz.=ウズベク語、Uy.=現代ウイグル語 (共に南東語群)) では、*V-(I)p bol-* [V(= verb stem)-CVB be-; 5言語での共通表記] の意味に異同がある。多くのチュルク諸語では、*V-(I)p bol-* は動作の完遂を表すが、同時にトルクメン語 (南西語群) では許可・禁止 (Clark 1998: 307, 風間 2022: 465)、カザフ語とウズベク語では非人称の参与者外 (不) 可能も表す (Rentzsch 2015: 95)。 *V-(I)p bol-* のモダリティ的な意味の通時的発展には、次の2つの説が挙げられる。Schönig (1987: 15) は、動作的な意味 (動作の完遂) からモダリティ的な意味が発展したと述べている。一方、Rentzsch (2015: 95) は、Schönig (1987: 15) の説明よりも妥当性のある説明として、モダリティ的な意味の発展は、単に *V-GAI bol-* の副動詞部分が *V-(I)p* に置き換えられたことによる、と述べている。

本発表では、中央アジアのチュルク諸語における *V-(I)p bol-* の意味・用法を、先行研究の記述および筆者の聞き取り調査によって整理することで、Schönig (1987: 15) による説と Rentzsch (2015: 96) による説のどちらがより妥当であるかについて検討する。Van der Auwera and Plungian (1998) による可能性に関する意味領域地図に各言語の状況を照らし合わせると、いずれの言語も能力可能を欠いている。これは、一方向的に各意味が発展した場合、共時的に各意味が隣接しなければならないという意味領域地図の原則に違反しているが、動作の完遂とモダリティ的な意味が別々に発達したと考えれば、矛盾がない。したがって、本発表は Schönig (1987: 15) の説ではなく、Rentzsch (2015: 96) による説を支持する。

本発表の構成は次の通りである。1 節で先行研究を概観し、問題提起を行い、2 節で分析を行い、その分析結果をもとに、3 節で考察を述べる。なお、先行研究からの用例にグロスが付されていれば、そのグロスも引用する。例文番号・日本語訳・太字などの文字飾りは発表者による。なお、*bol-* のグロスには be 「である」と become 「なる」があるが、本発表では統一せず参照元のグロスを引用する。

1. 先行研究概観と問題提起

1.1 中央アジアのチュルク諸語における *V-(I)p bol-*

- | | |
|--|---|
| <p>(1) 拘束的・禁止 「(腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない。」
 Trk. <i>Zayalan-yp=dyr, o-ny iy-ip bol-anok.</i>
 go.bad-CVB.PFV=COP.ASSERT that-ACC eat-CVB.PFV be-NEG.PRS</p> | <p>Rentzsch (2015: 95) は、多くのチュルク諸語では、<i>V-(I)p bol-</i> は動作の完遂を表すと指摘している。それだけではなく、モダリティ的な意味も表す。トルクメン語 (南西語群) では「禁止」に <i>V-(I)p bol-</i> が用いられることが指摘されている。<i>V-(I)p bol-</i> はトルクメン語以外でも用いられるが、表す意味が異なる。Rentzsch (2015: 94) は、カザフ語 ((2);</p> |
| <p>(2) Kaz. <i>Minaw el-diñ, qazırlı el-diñ däl</i>
 DEM people-GEN energetic people-GEN exactly
 <i>bul is-in ayaqsız tasta-p bol-ma-ydı!</i>
 DEM matter-POSS.3.ACC fruitless throw-CVB become-NEG-INTRA
 ‘The concern of this industrious people may not remain without result.’
 (Rentzsch 2015: 94)</p> | <p>トルクメン語 (南西語群) では「禁止」に <i>V-(I)p bol-</i> が用いられることが指摘されている。<i>V-(I)p bol-</i> はトルクメン語以外でも用いられるが、表す意味が異なる。Rentzsch (2015: 94) は、カザフ語 ((2);</p> |
| <p>(3) Uz. <i>Nasib-dan qoch-ib bo'l-ma-ydi.</i>
 share-ABL flee-CVB become-NEG-INTRA
 ‘One cannot escape one's destiny.’ (Rentzsch 2015: 94)</p> | <p>トルクメン語以外でも用いられるが、表す意味が異なる。Rentzsch (2015: 94) は、カザフ語 ((2);</p> |

北西語群) とウズベク語 ((3); 南東語群) では、非人称の参与者外 (不) 可能を表すと述べている。

1.2 Rentsch (2015) と Schönig (1987) による説はどちらがより妥当なのか

前節冒頭で述べたように、Rentsch (2015: 95) は、多くのチュルク諸語において、*V-(I)p bol-* がモダリティ的な意味のみならず、動作の完遂を表す、と指摘している。確かに、本発表で扱う 5 言語において、*V-(I)p bol-* が動作の完遂を表すことは先行研究から確認できる (詳細は 2 節で述べる)。

V-(I)p bol- のモダリティ的な意味の通時的発展に関して、次の 2 つの説が挙げられる。Schönig (1987: 15) は、動作的な意味 (動作の完遂) からモダリティ的な意味 (非人称の参与者外 (不) 可能) が発展したと述べている。しかし、Rentsch (2015: 95) は、*V-(I)p bol-* が動作的な意味を表すマーカーとしてよりも早く参与者外可能を表すマーカーとして安定して現れていたと述べ、さらに、モダリティ的な意味 (非人称の参与者外 (不) 可能) の発展は、単に *V-GAll bol-* 中の目的副動詞 *V-GAll* が *V-(I)p* に置き換えられたことによる、と述べている。その理由について、Rentsch (2015: 96) は、可能を表すあらゆる構造において *bol-* が卓越しているため、動作的な意味を介してモダリティ的な意味が生まれたと想定する必要はないだろう、と述べている。

先に、Schönig (1987: 15) による「動作的な意味 (動作の完遂) からモダリティ的な意味 (非人称の参与者外 (不) 可能) が発展した」という説を挙げた。Schönig (1987: 15) によれば、この発展は、*bol-* 自体の「なる」という意味と、「なる」から「終わる」という意味に拡張したことによって引き起こされたという。Schönig (1987: 15) による以上のシナリオを正しいと仮定すると、下記の Van der Auwera and Plungian (1998: 94) による可能性の意味領域地図 (赤枠は発表者付す) にしたがえば、*V-(I)p bol-* の意味は、参与者内可能性、参与者外可能性、束縛的可能性へと発展しうる。

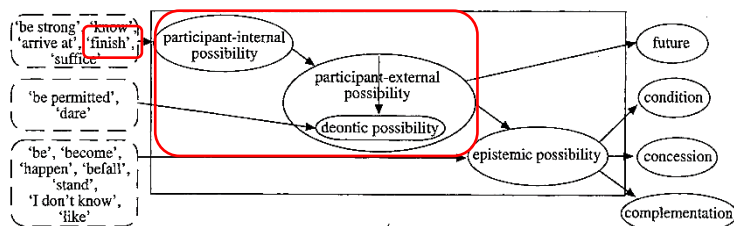


図 1: 可能の意味領域地図 (Van der Auwera and Plungian 1998: 94)

本発表では、中央アジアのチュルク諸語における *V-(I)p bol-* の意味・用法を先行研究の記述および筆者の聞き取り調査によって、各言語の *V-(I)p bol-* が、動作の完遂、能力可能 (=

参与者内可能)、状況可能 (= 参与者外可能)、許可・禁止 (= 束縛的可能性) を表しうるかを検証する。その検証結果を用いて、Schönig (1987: 15) による説と Rentsch (2015: 96) のどちらがより妥当であるかについて議論する。

2. 各言語における *V-(I)p bol-* [V-CVB be-] の意味

本発表では、動作の完遂については先行記述による例文を挙げ、可能については例文 (トルクメン語は風間 2022、カザフ語は聞き出しによる用例、キルギス語はアクマタリエワ 2011、ウズベク語は日高 2013、ウイグル語は風間・新田 2023 から引用) の一部を *V-(I)p bol-* に置き換えて、それが非文であるかどうかを各言語の母語話者に尋ねた。トルクメン語は 1991 年生・マリ市出身の男性に、カザフ語は 1994 年生・シムケント市出身の女性に、キルギス語は 1978 年生・ナルン市出身の女性に、ウズベク語は 1994 年生・タシケント市出身の女性に、現代ウイグル語は 1990 年生・カシュガル市出身の男性に、調査への協力を依頼した。

2.1 トルクメン語 (南西語群)

Trk. *V-(I)p bol-* は、動作の完遂 (4) あるいは状況可能 ((5), (6))、許可・禁止も表す (禁止の例は (1) を参照されたい)。ただし、能力可能は表さない (8)。

- (4) *Annaguly çay-y-ny iç-ip bol-dy.* (5) *Žygyldyk-da gowy haly al-yp bol-ýar.*
 PN tea-3.POSS-ACC drink-CVB be-PAST PLN-LOC good rug get-CVB be-PRS
 「アンナグルはお茶を飲み終えた。」 「ジグルドゥック (地名) でよいカーペッ
 (Clark 1998: 326) トを買うことができる。」 (Clark 1998: 307)
- (6) *Bu ėl gaty batga. Mun-dan ýuk-li araba-ny sür-üp bol-maz.*
 this road very muddy this-ABL load-PROP wagon-ACC drive-CVB be-AOR.NEG
 「この道は非常にぬかるんでいる。だから、荷を積んだ台車は運転できない。」 (Clark 1998: 307)
- (7) *Çilim çek-ip bol-ar=my?*
 cigarette smoke-CVB be-AOR=Q
 「タバコは吸えますか? / タバコを吸ってもいいですか」 (Clark 1998: 307)
- (8) *Ol hytaý-ça {oka-p bil-ýär. /*oka-p bol-ýar}.*
 that chinese-language read-CVB.PFV know-PRS read-CVB.PFV be-PRS
 「あの人は中国語が読めます。」

2.2 カザフ語 (北西語群)

Kaz. *V-(I)p bol-*は、動作の完遂 (9) のみ表し、いかなる可能 (状況可能 (2) = (10)、能力可能 (11)、許可

- (9) *Obed iš-ip bol-dī-m.* (12)、禁止 (13)) も表さない。(10) は、Rentsch (2015: 94) による例であるが、Rentsch (2015: 94) は現代の標準的なカザフ語
 lunch drink-CONV AUX-PAST-1SG 「私は昼食を食べ終えた。」
 (Muhamedowa 2016: 117) ではない、と述べている。
- (10) *Mīnaw el-dīñ, qažirli el-dīñ dāl bul is-in*
 DEM people-GEN energetic people-GEN exactly DEM matter-POSS.3.ACC
*ayaqsız {*tasta-p bol-ma-ydī! /tasta-w-ya bol-ma-ydī!}*
 fruitless throw-CVB become-NEG-INTRA throw-VN-DAT be-NEG-INTRA
 「この人々の、精力的な人々の、この問題は結果なしに放れない！」
- (11) *Ana kisi/adam qitayša {oqi-y al-a=dī /*oqi-p bol-a=dī}.*
 that person Chinese read-CVB.CNT take-NPST=3 read-CVB.SEQ be-NPST=3
 「あの人は中国語が読めます。」
- (12) *bol-dī-ø, qayt-a {ber-üw-ge bol-a=dī /*ber-ip bol-a=dī}.*
 be-PAST-3 return-CVB.CNT give-VN-DAT be-NPST=3 give-CVB.SEQ be-NPST=3
 「(その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。」
- (13) *onī {že-w-ge bol-ma-y=dī /*že-p bol-ma-y=dī}.*
 3SG.ACC return-VN-DAT be-NEG-NPST=3 return-CVB be-NEG-NPST=3
 「(腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない。」

2.3 キルギス語 (北西語群)

- (14) *Birinči kar ötköndö jaa-p bol-du, ...* Kr. *V-(I)p bol-*は、動作の完遂 (14)
 一番目 雪 先日 降る-CVB なる-PAST のみを表し、いかなる可能 (能力可
 「初雪が先日降り終わった、...」 (アクマタリエワ 2023: 70) 能 (15)、状況可能 (16)、許可 (17)、
 禁止 (18) も表さない。
- (15) *Al kitayča {oku-y al-a-t /*oku-p bol-a-t}.*
 彼 中国語 読む-CVB 取る-PRES-3 読む-CVB なる-PRES-3
 「あの人は中国語が読めます。」
- (16) *Karañgi. Ošonduktan, emne de-p jaz-ıl-ıp tur-gan-ı-n*
 暗い だから 何 言う-CVB 書く-PASS-CVB 立つ-PART-3:POSS-ACC

{oku-y al-ba-y-m /*oku-p bol-bo-y-m.}
 読む-CVB 取る-NEG-PRES-1SG 読む-CVB なる-NEG-PRES-1SG
 「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

(17) **Ket-e {ber-se-ŋ bol-o-t /*ber-ip bol-o-t.}**
 行く-CVB 与える-COND-2SG なる-PRES-3 与える-CVB なる-PRES-3
 「もう帰ってもいいですよ。」

(18) **(Sas-ip ket-iptir) Ani {je-gen-ge bol-bo-y-t /*je-p bol-bo-y-t.}**
 (腐る-CVB 行く-PST4) それ(ACC) 食べる-PST2-DAT なる-NEG-PRES-3 食べる-CVB なる-NEG-PRES-3
 「(腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない。」

2.4 ウズベク語 (南東語群)

(19) **Men bu hikoya-ni yoz-ib bo'l-di-m.**
 1SG this story-ACC write-CVB.SEQ be-PAST-1SG
 'I finished writing this story.' (Bodrogligeti 2003: 725)

Uz. *V-(I)p bol-*は、動作の完遂 (19) あるいは状況可能 (= 参与者外可能) を表す。Bodrogligeti (2003: 725) によれば、*V-(I)p bol-*が否定を表す形式を伴う場合に、*V-(I)p bol-*が可能を表すという。この場合、状況可能 (= 参与者外 (不) 可能) を表す (20)。ただし、能力可能 (21), 許可 (22), 禁止 (23) は表せない。

(20) **Buloq-qa och-il-gan yo'l-dan ikki chelak-ni ol-ib o't-ib bo'l-mas=di.**
 spring-DAT open-PASS-PTCP.PAST road-ABL two bucket-ACC take-CVB.SEQ pass-CVB.SEQ be-PTCP.FUT=PAST
 「泉 (のため) に開かれた道を、2 つのバケツを持って通り過ぎることはできなかった。」 (Bodrogligeti 2003: 725)

(21) **{U /Ana u} odam xitoy til-i{-da/-ni} {o'qi-y ol-a=di. /*o'qi-b bol-a=di}.**
 that very that person china language-3.POSS-LOC/-ACC read-CVB take-NPST=3 read-CVB be-NPST=3
 「あの人は中国語が読めます。」

(22) **Shu ish-ni tugat-sa-ng, {qayt-sa-ng ham bo'l-a=di. /*qayt-ib bo'l-a=di}.**
 that work-ACC finish-COND-2SG return-COND-2SG also become-NPST=3 return-CVB be-NPST=3
 「(その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。」

(23) **Ayni-b qol-gan-i uchun, sen bu-ni {yey-ish-ing go.bad-CVB remain-PTCP.PAST-3.POSS because 2SG this-ACC eat-VN-2SG.POSS {kerak /mumkin} emas-o. /*ye-b bol-ma-y=san}.**
 necessary possible COP.NEG-3SG eat-CVB be-NEG-NPST=2SG
 「(腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない。」

2.5 現代ウイグル語 (南東語群)

(24) **Jümä vä pešin namaz-lir-i oq-ul-up bol-uš bilän=la**
 Friday and noon pray-PL-3.POSS read-PASS-CVB be-VN with=EMPH

Hoşur imam aldira-p orn-i-din tur-di.
 PN imam be.hurry-CVB place-3.POSS-ABL stand-PAST
 「金曜正午の祈りが読まれ終わってすぐに、ホシュルイマームは急いでその場から立った。」 (Ibrahim 1995:127)

Uy. *V-(I)p bol-*は、動作の完遂 (24) のみを表す。いかなる可能 (能力可能 (25)、状況可能 (26)、許可 (27)、禁止 (28) も表さない。

(25) **U xenzu-çi-ni {oqu-yala-ydu /*oqu-p bol-i=du}.**
 that Chinese-ADV LZ-ACC read-POT-IND.PRS read-CVB.PF be-NPST=3
 「あの人は中国語が読めます。」

(26) *Bu qaranğu-da néme de-p yéz-iqliq tur-ğın-i-ni*
 this darkness-LOC what say-CVB.PF letter-ADJLZ stand-PTCP.PF-3.POSS-ACC

*{bil-el-mi-di-m. /*oqu-p bol-ma-y=men.}*
 know-POT-NEG-IND.PST-1SG read-CVB.PF be-NEG-NPST=1SG

「明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。」

(27) *(U iş tügi-se) {ket-si-ğiz bol-idu /*ket-ip bol-idu.}*
 that work finish-CVB.COND go-CVB.COND-2SG.HONOR become-IND.PRS go-CVB.PF be-IND.PRS

「(その仕事が終わったら)もう帰ってもいいですよ。」

(28) *(U nerse buz-ul-up qal-uptu,) {yé-si-ğiz bol-ma-ydu}*
 that thing break-PASS-CVB.PF stay-INDIR.PST eat-CVB.COND-2.HONOR become-NEG-IND.PRS

*/*yép bol-ma-ydu.}*
 eat-CVB.PF be-NEG-IND.PRS

「(腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない。」

3. Schönig (1987) による説と Rentzsch (2015) による説の検証

2 節の分析結果を Van der Auwera and Plungian (1998: 94) によるモダリティの意味領域地図 (1.2 節; 図 1) にしたがって、表 1 に整理する。当該の意味領域を表すセルを灰色に塗りつぶしている。

表 1: 中央アジアのチュルク語における *V-(I)p bol-* の意味領域

		動作の完遂 'finish'	能力可能 participant-internal possibility	状況可能 participant-external possibility	許可・禁止 deontic possibility
南西	トルクメン	(4)	(8)	(5), (6)	(7)
北西	カザフ	(9)	(11)	(10)	(12), (13)
	キルギス	(14)	(15)	(16)	(17), (18)
南東	ウズベク	(19)	(21)	否定のみ (20)	(22), (23)
	現代ウイグル	(24)	(25)	(26)	(27), (28)

表 1 を参照するに、本発表で対象にした言語において、*V-(I)p bol-* は能力可能を表さない。これは、意味領域地図では、単一の道筋において、共時的に存在する複数の意味領域は隣り合わなければならない (Van der Auwera and Plungian 1998: 112)、という原則に違反している。この原則に従うのであれば、各言語において *V-(I)p bol-* は能力可能と状況可能を表していなければならない。したがって、*V-(I)p bol-* が能力可能を表さないという本発表の分析結果から考えるに、Schönig (1987: 15) による「動作の完遂から可能へ発展した」(1.2 節) という、一方向的な発展を支持する説は妥当ではないと言える。

1.2 節で挙げた Rentzsch (2015) による *V-(I)p bol-* に関わる指摘を、副動詞と *bol-* の二つの観点に分けて検証する。まず、副動詞の観点から検証する。Rentzsch (2015) は、古代チュルク語の *V-Gall bol-* が典型的に非人称の参与者外可能を表し (Rentzsch 2015: 38-39)、のちにこの構造のうちの目的副動詞 *V-Gall* 「～するために」が継起副動詞 *V-(I)p* 「～して」に置き換えられた (Rentzsch 2015: 96)、と述べている。共時的に見ると、中央アジアのチュルク諸語において、圧倒的に継起副動詞 *V-(I)p* の使用頻度が高く、かつ、そのうちのいくつかの言語では目的副動詞 *V-Gall* は使用範囲が限定されている。カザフ語では書き言葉でしか用いられない (Muhamedowa 2015: 54)、キルギス語では口語・南部方言・口頭での民話でしか用いられない (Zaxarova 1987: 300)、ウズベク語では古典作品に見られる (Bodrogligeti 2003: 609)。

次に、*bol-* の観点から検証する。Rentzsch (2015: 96) は、可能を表すあらゆる構造において *bol-* が卓越

しているため、動作的な意味を介してモダリティの意味が生まれたと想定する必要はないだろう、と述べている。本発表における分析でも、カザフ語では、与格付き動名詞と組み合わせることで状況可能、許可・禁止が表されている例 ((12), (13))、キルギス語・ウズベク語・現代ウイグル語では、条件形と組み合わせることで、許可・禁止が表されている例 ((17), (22), (27), (28)) を挙げた。これらの形式は、*V-(I)p bol-* が表す動作的な意味を表すことはない。以上より、Rentzsch (2015) による「古代チュルク語の *V-Gall bol-* のうちの目的副動詞 *V-Gall* 「～するために」が継起副動詞 *V-(I)p* 「～して」に置き換えられた」および「動作的な意味を介してモダリティの意味が生まれたと想定する必要はない」という説は妥当だと結論付ける。

謝辞

本発表の調査にご協力いただいたインフォーマントの方々に深く感謝申し上げます。ただし、本発表における誤りがあった場合、その誤りは全て筆者に帰するものである。なお、本研究は、日本学術振興会科研費 JP22J01538, JP22KJ1443 の助成を受けている。

略号一覧 (Leipzig Glossing Rules に記載されているもの以外) :

ADJLZ (adjectivizer)/AOR (aorist)/ASSERT (assertion)/CNT (continuative)/CONV (converb)/EMPH (emphatic)/HONOR (honorific)/INDIR (indirective)/PART (participle)/INTRA (intraterminal)/PAST (past)/PF (perfect)/POT (potential)/PRES (present)/PST2 (不明過去)/PST4 (不定過去)/SEQ (sequential)/VN (verbal noun)

参考文献

- アクマタリエワ、ジャクシルク (2011) 「キルギス語—データ : 「モダリティ」」『語学研究所論集』16: 203-9. / アクマタリエワ、ジャクシルク (2023) 「キルギス語の動詞 *jaa-* 「降る」に後続する補助動詞—21 種類の補助動詞の文法的意味と特徴—」『北方言語研究』13: 61-76. / Auwera, Johan van der and Vladimir A. Plungian. (1998) *Modality's Semantic Map. Linguistic Typology*. 2(1):79-124. / Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa. / Clark, Larry (1998) *Turkmen reference grammar*. Wiesbaden: Harrassowitz. / 日高晋介 (2013) 「ウズベク語: 補遺データ (受動表現, ヴォイスとその周辺, モダリティ) (データ)」『語学研究所論集』18: 467-85. / Ibrahim, Ablahat (1995) *Meaning and usage of compound verbs in modern Uighur and Uzbek*. Ph.D. dissertation, University of Washington. / 風間伸次郎 (2022) 「トルクメン語: 特集補遺データ 「他動性」「ヴォイスとその周辺」「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」「所有・存在表現」」『語学研究所論集』26: 439-99. / 風間伸次郎・新田志穂 (2023) 「現代ウイグル語: 特集補遺データ 『「他動性」「ヴォイスとその周辺」「連用修飾複文」「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「情報構造と名詞述語文」「所有・存在表現」「否定、形容詞と連体修飾複文」「情報構造の諸要素」』」『語学研究所論集』27: 551-614. / Muhamedowa, Raihan (2015) *Kazakh. A comprehensive grammar*. Routledge: London and New York. / Rentzsch, Julian (2015) *Modality in the Turkic languages: form and meaning from a historical and comparative perspective*. Berlin: Klaus Schwarz Verlag. / Schönig, Claus. (1987) (Un-)Möglichkeitsformen in den sogenannten Altaischen Sprachen [(Im-)possibility forms in the so-called Altaic languages]. *Materialia Turcica*. 13: 1-28. / Zaxarova, O. V. (1987) *Grammatika kirgizskogo literaturnogo jazyka. Chast' 1. Fonetika i morfologiya*. [The grammar of literary Kirghiz. Part 1. Phonetics and morphology.] Frunze: Ilim